

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
倫理学 Ethics		1年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	()	外国人学生は高い日本語技能が必要である
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
哲学				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特になし				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
廣澤 圭則		授業時間外		授業中に指示します
授業の概要				
倫理学について、東洋・西洋思想を中心に古典～近代までを講義形式にて実施する。				
授業の目標				
前期に開講した「哲学」の実質的な続編である。 本講義では、仏教や老荘思想など実践として応用できる学問を勉強し、今後の生活における指針や心の支えとしてほしい。 また、「哲学」講義と同様に「正解のない問題を思考する能力」を鍛えること、「自分の考えを自分の言葉で明確に述べる」という社会人として必須とされる能力を鍛えることを授業の目標とする。				
授業の方法				
パワーポイントを用いた講義形式にて授業を行う。補足教材として、作成したレジュメを授業毎に配布する予定。 哲学と絡めた歴史の講義も並行して行う。 また、第13～15回講義では生徒諸君にテーマを設定してプレゼンテーション発表を実施してもらう。				
学習の成果（学習成果）				
全15回の講義を踏まえて、自分の考えを自分の言葉で明確に述べる事が出来るようになることを、学習の成果とする。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス（学習成果、成績評価等についての説明）、講義内容についての事前予告			
第2回目	インド哲学① 『リグ・ヴェーダ』とウパニシャッド哲学			
第3回目	インド哲学② 釈迦と原始仏教			
第4回目	インド哲学③ 竜樹と空の思想、インド仏教の衰退			
第5回目	西洋哲学① 犬儒学派とストア派、コスモポリテースとアパテイア			
第6回目	中国哲学① 孔子と『論語』、墨子と兼愛			

第7回目	中国哲学② 孟子と性善説、韓非子と性悪説、仁政と法家思想	
第8回目	中国哲学③ 老荘と荘子、道教と無為自然	
第9回目	中国哲学④ 太祖李世民と貞観の治、『貞観政要』と諫議大夫	
第10回目	日本哲学① 日本における仏教伝来、最澄と空海、密教思想	
第11回目	日本哲学② 鎌倉仏教の発展と末法思想、親鸞と他力本願	
第12回目	日本哲学③ 禅の思想、栄西と公案	
第13回目	プレゼンテーションの案内、補足授業、振り返り	
第14回目	プレゼンテーション発表①	
第15回目	プレゼンテーション発表②	
事前・事後学習	不明な点があった場合は、講義前後に質問をすること。レポートでの質問も受け付ける。	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	20%	授業にて積極的な発言ができたかどうかで評点する。質問に対する独創的な回答については加点とする。 私語は原則として認めないため、発見した場合は密かに減点する。
レポート	20%	授業終了時に出欠確認も兼ねたレポートを提出してもらう。 授業に対する理解が反映されていた場合、加点する。
調査報告書		
小テスト		
試験	20%	期末試験を実施し、授業で扱った事項に関し、正確に学習し回答しているか評点する。
発表内容（態度含む）	30%	明確なテーマを設定し、それを自分の言葉できちんと発表できること。聴講者からの質問に対して回答できるか評点する。
その他	10%	出席について、授業開始後の遅刻は原則として認めない。 電車遅延の場合は駅から発行される『遅延証明書』を提出すれば出席扱いとする。
教科書と参考図書		
授業毎にレジュメを配布する。		
履修上の留意点・ルール		
●実務経験(職種: サービス事業 職歴: 通算8年)		
発言を重んじる授業であるため、生徒諸君には事あるごとに質問を行う。そのため、生徒諸君はこちらからの質問に答えられるようにしておくこと。		